

仕事のスキルを地域に生かす、働く世代のまちづくり

大阪ええまち
アカデミー

お手紙、はじめます。

(実践リーダー：圓句 美沙
実践メンバー：小西 一輝、濱田 尚子)



① 実践プランの背景・課題 (応募した時のこと)

「生きていてもいいことなんてなかった」
独身、無職、高齢男性の一言がすべての始まり。

たくさんの困りごとを聴いてきたけれど、
未来を示すことはできていなかったという気付き。

抑えられないざわつきを武器に
「答え」を見つけるために挑戦！

④ 現場見学・トライアル (チームでやってみたこと)

- ・ ふれあい喫茶への参加
- ・ 現地での紙すき体験
- ・ 製紙工程の見学
- ・ 子どもたちへの聞き取り

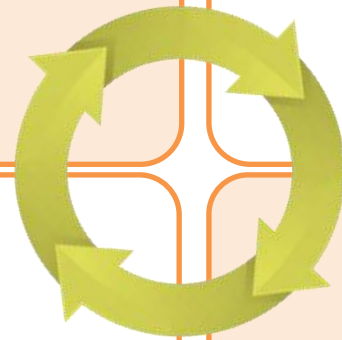


② やってみようと思ったこと・着眼点 (チームになって考えたこと)

- ・ シニアとジュニアの交流方法
- ・ お手紙のカタチ
- ・ 開催場所

③ 事例調査・文献調査 (チームで調べてみたこと)

- ・ 約6割の高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えている(平成29年度『高齢社会白書』)
- ・ 子ども・若者との交流が高齢者にとって肯定的な効果や影響を及ぼすと報告されている(糸井ら2012)
- ・ イベント内容が同じものでも企画を工夫することで多世代交流を生むことができる。e.g.米や汁の炊き出しを”焼きマッシュマロ”にした(ひばりが丘団地界隈の事例)



⑤ 実践プランの再設定

(③④を経てチームで検討し直したこと・やってみたからこそ分かったこと)

- ・ シニアとジュニアに分断した役割をお願いするのではなく、同じ作業を行うことによって、思いや時間の共有を作れる仕組みにする。
- ・ 同じ場所で開催するのではなく、市内各所を巡回し、参加しやすい環境を整える。

⑥ 実践計画の策定・試行/活動のこれから

- ・ 3月中旬にシニアとジュニアを集い「お手紙、はじめます。」を実施。
- ・ ちーむびーちのインスタを開設する。

⑦実践に向けた成果物

残念ながら、(コロナ感染症拡大の影響もあり)活動期間内にシニアとジュニアの交流の場の設定には至りませんでした。
しかしながら、各世代からの聞き取りやチームでのディスカッションを通じて
実践の目的と期待できる効果を明確にすることができました。

■実践目的

- ・ 分裂された世代間交流を育む。
- ・ 地域で“顔見知り”を増やす。

■期待できる効果

- ・ 普段、接することがない子どもたちと触れ合うと活力が生まれる。
- ・ シニアならではの知識を周りに伝えることで、生きがいを持てるようになる。





実践リーダー
圓句 美沙

集団行動が苦手で、他人と関わることが嫌いだった私が、「仲間」と一緒に挑戦し、たくさんのかことを学び得ることができました。

一人ではできないこと、思いつかないことに触れる度、新しい何かが生まれる予感にワクワクしています。

出会いに感謝。そして、このバトンを次のチャレンジャーに繋げていきたいです。



実践メンバー
小西 一輝

初めての経験ばかりで、新しいことを企画する楽しさ・難しさを知ることができました。



実践メンバー
濱田 尚子

私自身が地域でどんな活動をしたいのか具体的なイメージをもてるようになりました。

これから

「行動あるのみ」です!!

★★★メンバー募集・PRコーナー ★★★

第一回目の
お手紙、はじめます。

3月19日（土）午前中
@ハート交流館（貝塚市）
で開催予定

近日、、、
ちーむびーちのインスタ開設！！

検索は

#ちーむびーち
#お手紙はじめます

でお願いします！

